産業建設常任委員会

委員長　赤木　英機

議案審査状況

6月定例会では、6件の付託を受け、審査を行った。採決の結果、全案可決した。主な内容は次のとおり。

字の区域の変更

山水地区（芦辺町）圃場整備の実施に伴い、字の境界を変更するもの。

あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更

郷ノ浦港新岸壁、通称「マイナスナナハン（7.5m）岸壁」の背後地埋設箇所を編入するもの。

Q　緑地化は計画通り整備するのか。

A　緑地計画は基本的に変更なし。平成22年度までに完成予定。

Q　今年度から3ヶ年で耐震強度工事が施工されるが、その内容は。

A　震度6に耐えうる施設整備として、総事業費14億円を計上。

漁業集落排水処理施設条例の一部改正

芦辺漁港漁業集落環境整備事業において、瀬戸・芦辺地区集落排水処理施設を新たに設置し、管理を行うために改正するもの。

簡易水道事業特別会計補正予算

採石場跡地の水源地の水質・土質・土壌・ダイオキシンの調査費と石田の大山浄水池の活性炭の取替え工事費等の補正。

下水道事業特別会計補正予算

ダイエー横の緑地整備、久原病院付近の6号集落道等の工種変更による管路工事への組換え。

市道路線の認定

郷ノ浦町永田触の市民病院医師公舎の建替えに伴い、市道の認定が必要になったもの。

郷ノ浦港新岸壁に着岸した巡視船「ちくぜん」（H20.7.26）

ミルちゃん

陳情・要望を審査しました！

陳情　要望　意見書　コーナー

採択　壱岐市民病院における透析患者受け入れ体制の充実に関する陳情

○提出者　壱岐市民病院腎友会
代表　森山　浩
品川外科病院腎友会
会長　富川　敬子

（厚生委員会の意見）

現在の壱岐市全体の現状は3病院で合計36台、週108人をカバーしている状況。一部病院では時間帯を工夫し、夜間の診療も行われている。一方、患者数は全体で91人から98人ということであり、稼働率88%から91%という病院側の説明であった。

しかし年ごとに患者は増えており、また患者の高齢化を考えても今後増床に向けての対策は早急に検討される課題と思われる。

一番の問題はハード面よりはむしろ医師確保が急務であり、この辺りがまず解決されればハード面の予算化はそうハードルも高くないと思われる。

今回この陳情も出されており、市においても医師の確保に最大限の努力をされ、早期にこのことが実現できるよう努力されたい。

採択　障害者でも使用できるプール場の開放について

○提出者　壱岐市芦辺町諸吉本村触
酒井　勝治

（厚生委員会の意見）

委員会でも検討したが、候補としては学校のプール等は警備を含め施設的に無理のようであり、サンドーム壱岐もしくは勝本B＆G海洋センタープール辺りが陳情に対応できる施設と考える。

ただ施設の改修や専門職員の配置など課題も多い。市においてもこれらのことを身障者団体と話し合いを進め、お互いに理解の上で早急に実現に向け努力されるよう希望したい。